

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日） 難波 文恵 （****年**月**日）
本籍（外国人の場合国籍） （都道府県） ****
学位（専攻分野） 博士（感覚矯正学）
学位授与番号 甲第 173 号
学位授与日付 令和4年3月21日
学位授与の要件 学位規程第3条第3項該当
論文題目 日本語発話におけるリズム異常とモーラ
ー運動障害性構音障害への音響音声学的接近ー

主査 彦坂 和雄 副査 塩見 将志 副査 種村 純

博士論文内容の要旨

本論文では運動障害性構音障害と健常者の発話を、サウンドスペクトログラフを用いて分析した。その結果、リズム異常の印象をもたらす要因は等時性の異常、モーラ分節の異常、発話速度の異常であることを明らかにした。このうち、モーラ分節の異常は音響分析によって、非分節モーラ率を算出することが可能であった。発話文が相違しても算出可能な非分節境界率を用いて、運動障害性構音障害の諸型において、自由な発話における非分節境界率の実測と推定値の隔たりが発話明瞭度と相関することを示した。さらに発話の音響分析結果から非分節境界率の実測値と推定値を算出し、散布図に示すソフトウェアを作成した。

博士論文審査結果の要旨

論文発表会では、予備審査会以降の追加部分、特に新規に発明した指標である非分節境界率の算出に関わる基準、測定手続き、算出手続きなどの詳細を確認した。また、運動障害性構音障害の症候分析に関わる意義と今後の発展の可能性を訊き、発表者は運動障害性構音障害者に広く適用すると回答した。特に、非分節境界率の推定値と実測値の隔たりが、重度の症例では自由会話時に大きく、軽度例では音読において、より大きくなる点の臨床的意義について討論し、各種言語障害の症候分析への発展性を検討した。